

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス めばえコスモス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 17日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 17日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広々とした環境の中、特性に応じたフレキシブルな少人数グループ・個別対応を実践。	興味・関心や発達段階、あるいは「落ち着いてじっくり取り組みたい子」と「活発に動きたい子」など、その時の特性に合わせて少人数のグループを柔軟に編成する。	複数の活動が同時進行する場合でも、スタッフ間の情報共有と一貫した対応で支援の質のバラツキを防ぎたい。
2	四季折々の体験や外出活動を通じて、人との関わりや社会ルールを楽しく学びます。	「本物」に触れる直接体験、春のお花見、夏の川遊び、秋のどんぐり拾い、冬の雪遊びなど五感で季節を感じる体験を重要視している。	小・中・高校と異年齢での合同活動等を通じ、思いやりや協調性、コミュニケーション能力を育む。
3	放課後や休日に、子供たちが自分らしく過ごせる、安心・安全な居場所。	学校や、家庭以外の安心できる場として、社会的コミュニケーションの練習や、心のケアに重きを置いている。	子供の主観や選択を尊重し、本人が「行きたい」と思えるプログラム作りや空間の活用の提供。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験・技術・スキルの格差。	個人の資質の問題だけでなく「育成体系の欠如」や「情報共有・チームワーク不足」といった組織的な要因が主な原因。	職員の経験年数に応じた研修や、キャリアアップ体制の整備により、活動の質を維持・向上させること。
2	適切な人材確保と育成。	子供たち一人ひとりに合わせた柔軟な対応が求められる為、専門的な知識とスキルが必要不可欠だが安定した定着が見込めない現状。	柔軟なシフト制や、育児・介護との両立がしやすい勤務体系の導入。職員同士のチームワークを強化するための定期的なイベントや研修などの働きやすい環境作り。
3	地域に開かれた事業運営をしていない。	地域連携のノウハウ不足：地域行事への参加や、近隣住民との交流会をどう企画・実施すればよいか分からない。	事業所の行事、イベントの開放：夏祭り、お餅つき、季節のイベントなどに地域住民を招待する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		放課後等デイサービス めばえコスモス		公表日		2026年2月25日		利用児童数		20 (17)		回収数		13	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応							
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11			2									
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1		1									
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1		2									
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	1		1									
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	1											
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12			1									
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	1											
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13												
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13												
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	2	1		土曜日などの休みの行事が予定と違うことが多々あるようです。	他の児童との兼ね合い、職員配置、天候含めた様々な要素が重なり難しい時もあります。ご理解して頂けると幸いです。							
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2		3	8	コロナ禍以降行われていないように思う。	公園で偶然一緒に活動をし、共にする事はありますが、イベントを企画しての地域交流は実施していない。							
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13												
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	1											
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	2	5	4									
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13												
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	1			随時アドバイスや支援を頂き感謝しております。	送迎時の日常的な声掛けや、面談、定期的な電話相談等を通じてニーズに合わせてきめ細やかなサポートを継続します。							
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13												
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	3		6	4									
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12				1									

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	2		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	2		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13				今まで事故に出会いませんが、十分な意思疎通ができると思います。	契約前に連絡体制については話し合っています。今後も事故を未然に防ぐように安全第一に努めます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13				子どもは「第二の母」のように思っています。	これからも、子どもの声に耳を傾け気持ちを、しっかりと受け止めて安心できる環境を提供したいと思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13					
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	2			手厚い支援で満足していますが、平日利用時の着替えは事業所の中で、お願いしたいと思います。	誤解を招くような連絡帳の記入をしてしまいました。大変申し訳ございません。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス めばえコスモス		公表日		2026年 2月 25日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		9	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9		その日の、こどもの状態に合わせた柔軟な対応をしている。	職員間の連携を密にしチーム全体で支援する体制構築の強化。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			9		賃貸住宅である為、完全なバリアフリー化は難しいが可能な限り近づけていきたい。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9		毎日清掃、消毒を欠かさず衛生的な環境を整えている。	こども達の声を尊重しながらの空間作りの取り組み。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		9		他の子供との関わりが持てる場所と、一人で落ち着ける場所のバランスを意識した配置にしている。	その場所で何をするのか？こども自身が理解しやすい環境作り。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		9		送迎終了後や、次の日の朝のミーティングで振り返りの時間を設け、改善点や今後の支援目標について話し合っている。	短時間しか勤務していないパート職員の声も拾っていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9		集計後、職員間で話し合い改善策を考えている。	評価表を基に、保護者の意向に沿うような話し合いを繰り返す必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9		毎朝のミーティング、週ごとのミーティング、毎月一回の会議で各自意見を述べている。	職員の「気づき」や「困りごと」など、その都度相談しやすい風通しの良い体制を整える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			9		専門的、客観的な立場にある「第三者機関」からの評価を本社に相談している途中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		9		毎月研修を実施して、参加出来ないスタッフは研修記録を確認している。スキルアップの為に外部研修も積極的に参加している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		9		事業所全体で計画的な支援に取り組み、支援の質を高める努力をしている。	こどもの成長や環境の変化に合わせた定期的な見直しが必要。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		9		保護者の意向や家庭の様子を丁寧に聞き取り前向きな目標設定。保護者、学校、相談支援事業所等の関係者と会議で話し合い作成。	こどもの意志を尊重し、こども自身にばかり努力を求めるのではなく、支援者側の工夫の明記。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		9		こどもの状況、日常生活、発達状況を評価し職員全員の共通理解の下で支援内容や目標を決定している。	全職員が共通の支援内容に基づいた対応ができるように調整する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		9		日々の朝礼や会議で情報交換をし、直接処遇職員全員で共有しながら計画に沿った支援に活用している。	「地域連携」と「家族支援」が大きな課題なので少しずつ具体的な項目を増やしていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		9		日々の行動観察、活動記録、保護者からの聞き取りを通じて具体的な困りごとや特性を把握している。	客観的な発達段階や適応能力を数値化、測定を定期的に行い見直す。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		9		障害の特性、生活意向、長期・短期目標、具体的な支援内容を一人ひとりに設定している。	地域社会への参加を推進する「質の高い支援」の提供。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9		職員間で話し合い、利用者のニーズや特性に合わせたプログラムを作成している。	日々の活動終了後に振り返りを行い、気付いた点や意見を全職員で共有し見直す。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		9		担当者をローテーションするなど、活動が「マンネリ化」しないように工夫している。	新しい療育プログラムを取り入れ、室内活動の充実を図りたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		他者との関わりでパニックになりやすい場合は個別活動、対人スキルの向上を目指すなら集団活動と状況に応じて柔軟に対応。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎朝のミーティングで、当日の利用者の情報共有、支援内容、役割分担、連絡事項を確認している。	当日の、こどもの状況に応じて関わり方や活動の微調整についての確認。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		その日の支援内容や気付いた点、こどもの様子を共有している。	職員それぞれに、捉え方の違いがあり認識の統一が難しいところもある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		日々の健康状態や言動、特記事項（変化）、具体的な支援内容を記録している。	主観ではなく「事実（いつ、誰が、何をしたか、どうだったか）」を客観的に記述する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		必要に応じて学校や相談支援事業所等の関係機関とも連携し、計画変更を反映している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		単独でなく、こどもの発達段階や個別の課題に応じて組み合わせ実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		具体的な2つ〜3つの選択肢を提示し、どちらにするかを、こども自身に選ばせている。	こどもが何をするか、何を準備すべきかを目で見て分かりやすい環境にし、自ら選択できる状況を作る。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		こどもの特性や支援内容を把握し、深く理解している現場職員も会議に参加して専門的な意見を述べている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		医療や、福祉サービス、学校と連携して情報共有を密にした体制作りの構築をしている。	家庭、教育、福祉が協力して、こどもとその家族を支援する環境。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		活動内容、授業態度や友達との関わり方や下校の際のトラブルや、病気などのイレギュラー対応も出来ている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9			全員の情報共有は出来ていない為、保護者の同意の下に幼少期の支援内容、具体的な配慮事項、特性など連携シートや面談で引継ぐ。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		それまでの支援内容や個別支援計画、行動特性などの情報を保護者と本人の同意を得た上で提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9			研修時間の確保が難しい状況ではあるが、今後はスタッフの研修参加を促進するシフト作成の検討をしたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9			公園で一緒に活動することはあるが、イベントを企画しての地域交流の機会を設けていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9		二ヶ月に一度は協議会に参加し情報交換をして事業所間の連携や、研修会を通じたスキルアップの場として活用している。	一部の事業所しか参加していない、或いはマンパワー不足で参加が難しい時がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳での日々の引継ぎ、面談などを通じて健康状態や発達の節目を共有し密に連携している。	こどもの発達を共にささえる「協働」の姿勢を築きたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		面談や送迎時に、対応アドバイスを伝えるなど、具体的な悩みや課題を相談・共有できる環境を整えてはいる。	専門知識の提供や、家族同士の繋がりを目的とした家族向け研修会を開催したい。
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約前に時間をかけて説明している。	一回の説明では理解できない点もあるので繰り返し説明する必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		計画作成・見直し時に、本人と保護者から聞き取りを行い、希望や生活状況を把握している。	こどもの「人生にとって最も善いこと」は何かを最優先に検討したい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		具体的な支援内容を保護者に説明の上、保護者から書面で同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		日頃から家族と信頼関係を築き、障害特性に配慮した丁寧な対応や支援を心掛けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		9		今後は保護者会や交流会の定期的開催を実施したい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情は「相談」として直ぐにキャッチし解決に向けた体制を整備して迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		ホームページ等を活用し、活動内容や行事予定、連絡体制、自己評価表も公開し、子どもや保護者に積極的に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		取得した個人情報は、あらかじめ定めた目的の範囲以内のみで利用し、取扱いに関するルール作りをしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		内容を絞り、具体的かつ平易な言葉で、ゆっくり丁寧に、繰り返し繰り返し伝えている。	言葉の説明だけでなく絵カード、写真なども用いてしたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		9		事業所で開催する季節行事やイベントに地域住民を招待し、交流の場を設けたい。 (現在、準備中。)
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		火災、地震、不審者対応など具体的なシーンを想定した訓練を定期的におこなっている。	職員の研修だけでなく、家族にも周知徹底して安全対策を強化する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		BCPの内容を職員に周知・教育する為の「研修」とシミュレーションの「訓練」を定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		発作の症状、誘因、対応を事前に共有し、適切な支援に繋げる体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		アレルギーの状況は変化する為、お互いの誤った思い込みを防ぐ手段として、指導表は定期的な更新を依頼して確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全管理に必要な職員研修や、緊急時の対応訓練を定期的実施。安全点検の定期化、送迎車の安全確認徹底をしている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		家族に緊急時に速やかな連携が取れるよう、事故発生時の連絡体制や、状況説明の手順を伝えている。	今後、ホームページや書面で安全に関する取り組みを定期的に発信していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		根本的な原因を環境、職員、利用者の3つの観点から分析、再発防止に向けて検討している。	ヒヤリハット事例を基に「もし～したらどうなるか」を話し合い、職員の安全意識を高めたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		虐待防止の取り組みについてチェックリスト等を用いて定期的に自己点検を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束は原則禁止だが、生命・身体保護の「緊急やむを得ない場合」に限りの具体的な理由や方法を保護者に事前説明している。	正当な理由なき拘束は虐待に当たるため、厳格な運用と見直しが必要。	